



## がんばれ!! 搭乗率保証に挑む川勝知事

これまででも屢々、この紙面では是正を求めてまいりました静岡・福岡線の「搭乗率保証」について、川勝知事は早速、日航の西松社長に面会を求め、懸案の解消に努力していると8月11日の静岡新聞に掲載されていました。

紙面では川勝知事は不退転の姿勢と記述されており、曰く搭乗率保証は「理不尽な形で70%が足枷になっている」とあり、日本航空との取り決めに白紙にすべく努力しているとのことでありました。

3月の当初議会において石川知事の提案されたこの「搭乗率保証」は、率直に云って「寝耳に水」でありました。これに対し、当初予算の否決を伴ったこの議案に、私は与党の立場ではありませんが、敢えて空港委員会においても、自民党の議員総会においても、痛烈に反対意見を述べたのでありました

が、これを廃案するには既に遅く、私達は「付帯決議」をつけてこれを認めたのであります。

決議文には「開港後、速やかに善処すること」とあり、今日、川勝知事が処することは正鵠を得たものと評価するのであります。

さて、開港2ヶ月間の静岡空港の搭乗率が、68・1%と発表されておりました。折に異常気象やインフルエンザの流行など予想外の悪条件の中ではありませんでしたが、一応の数字を上げております。

しかし問題は福岡便であります。この期間の搭乗率は何と61・4%のにと、これは身震いするほど恐れていた数値であります。

例えばこの時点で保証料を計算すれば、2ヶ月間の提供座席数は40,314席です、約束の70%、即

ち28,220席に対し実際の使用数は24,737席、差し引き3,463席、これに契約した15,800円を掛ければ、現時点で既に5,470万円を日航に支払う義務が生じているのであります。

「そんなバカな」とは県民の思いでしょう。もし更に2ヶ月続いたなら「億」の県費を日本航空に保証しなければなりません。

だからこそ川勝知事の懸命な努力に期待するのであります。

その川勝知事ですが、就任後間もないところではありますが、広範に活躍する姿をテレビの中に見た県民は恐らく合格点を与えたものと存じます。

元来、知事や市長は政党代表であるべきでないと考えます。

これからも川勝知事におきましては、毀誉褒貶(知事の所信表明の中に出た難解熟語)することなく、信念に基づいた県政の実現に期待いたします。

# 服織地区にも「アイヌ」の歴史が垣間見える

服織地域の地名は、例えば千代、建穂、慈悲尾など「よそ者」には殆ど読むことのできない難解表示の地名が並びます。

しかし、極めて残念なことです。「服織」の表示は今では公の施設、服織小学校や服織郵便局に見るのみで、町名すら「羽鳥」になってしまいました。

「服織」とは嘗て秦氏に率いられた服部たちが、この地に住み、養蚕や機織に従事したことがこの「地名」の基となったのであります。

数年前、私は「私達はアイヌの末裔である」とのタイトルで小冊子を発刊したことがあります。

の中で「タキヨウ」とはアイヌの人々が命名した「トキウ」が訛つたものであり、「葦の沢山生えてる沼」を意味するものと紹介しました。

序に、藁科川の奥には谷津があります。「ヤツ」或いは「ヤチ」はアイヌ語で谷とか湿地をさす言葉であります。

また、千代もアイヌ語のセ（接頭語）・ムタ（湿地）・イ（接尾語）が転じた地名とも言われております。

さて建穂といえ、建穂神社が象徴的建造物でありました。神仏混淆の時代、「建穂神社」はもともと「建穂寺」の鎮守として

勧請されたものであります。

養老年間に「行基」が興したと伝えられる建穂寺は、駿府の中心の寺社で、周辺を多くの塔頭に囲まれた大寺院でした。そのことは、今日でも浅間神社の二十日会祭における「稚児舞い」がこの寺の舞楽を奉納したことに始まった点からも想像できるでしょう。

しかし、明治初年の廃仏毀釈を契機に衰退し、更に伽藍が焼失し、その後廃寺となってしまうのであります。

若し、焼失を免れていたなら、建穂寺は紛れもなく、本県を代表する観光名所であったと確信するのであります。

（以下、来月号に続く）

※塔頭：大寺に所属し、その脇を固めるように並ぶ子院のこと。

ら思い掛けずも「惻隱の情」という極めて馴染みのない語彙が飛び出しました。

## 惻隱の情について

### 一寸一言 私の雑記帳から

最近、難解熟語が流行っているためか、過日、テレビでの政治討論会の席上、野党の或る代議士か

この言葉の出典は孟子の言葉「無惻隱之心、非人也」によるもので意味するところは「惻」は「痛む、悲しむ」、「隱」は「憐れむ、憂える」、即ち「同情や憐れみの心、

可哀想に思う心こそ天下を治める者にとって必要な心である」と辞書にあります。

時は、今まさに総選挙の真っ只中、政治家にとってこの「惻隱の情」は時代が時代であれば尚、大切な尺度でありませんか。

## 備えあれば憂いなし ～防災の日に思う～

「いよいよ来たか」。先日の地震の激しい揺れに、東海大地震への覚悟を決めた方も多きことでしょう。今月9月1日は防災の日。元来は、1923年9月1日の関東大震災に因って制定された記念日です。また9月1日は、立春から数えて二百十日の台風シーズンとも合致するため、「災害への備えを怠らないように」との戒めを込めて1960年に制定されました。

最近、毎年繰り返される防災訓練に多少マンネリムードも漂っており、また働き盛りの若い世代の参加率の低さも問題になっていました。しかし、今年身をもって地震の恐ろしさを経験したばかりですから、誰もが真剣に訓練に参加するでしょう。

地震は天災ですが、日ごろの心掛け次第で被害を最小限にとどめることは可能です。「備えあれば憂いなし」という諺をあらためて噛みしめて、今年の防災訓練に臨みたいものです。



## 『天野進吾』の歴史講座

町内会の集會、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。

大変ありがたいことにこのSHINGO・SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。